

## 株式会社大和証券グループ本社

契約の種類：アニュアルレビュー

日付：2019年11月18日

担当者：

Wakako Mizuta, wakako.mizuta@sustainalytics.com, (+81) 3 4571 2343

Marie Toyama, marie.toyama@sustainalytics.com, (+81) 3 4571 2343

### はじめに

2018年11月、株式会社大和証券グループ本社（以下、「大和証券グループ本社」）は再生可能エネルギー及びグリーンビルディングに関連する支出のファイナンス又はリファイナンスを目的とするグリーンボンドを発行しました（以下、「グリーンボンド」）。2019年11月、大和証券グループ本社はサステナリティクスとの間で、グリーンボンドを通して資金の充当を受けたプロジェクトを審査し、これらのプロジェクトが大和証券グループ本社グリーンボンドフレームワーク（以下、「グリーンボンドフレームワーク」）で規定された調達資金の使途のクライテリアやレポートングクライテリアを満たしているか評価を行う委託契約を締結しました。<sup>1</sup>

### 評価基準

サステナリティクスは以下の要件について、2018年及び2019年に調達資金の充当を受けたプロジェクトを評価しました。

1. グリーンボンドフレームワークで規定された調達資金の使途及び適格クライテリアとの適合
2. グリーンボンドフレームワークで規定された各調達資金の使途のクライテリアに対する少なくとも一つの主要業績評価指標（KPI）に関する報告

表1に調達資金の使途及び適格クライテリア、表2に関連する主要業績評価指標を示します。

表1：調達資金の使途及び適格クライテリア

調達資金の使途	適格クライテリア
(A) 再生可能エネルギー	<p>再生可能エネルギー発電プロジェクトに対し、大和エネルギー・インフラ株式会社（以下「DEI」と言います）を通じて実施する投融資であって、以下のクライテリアに適合するもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギー発電プロジェクト（関係会社が実施するプロジェクトを含む）の開発、建設、運営に関連する支出。適格プロジェクトは、太陽光発電、風力発電、地熱発電、水力発電（発電容量が20MWを超える大型のものを除く）、バイオマス発電（廃棄物由来のバイオマス資源）であること。</li> <li>リファイナンスの場合、グリーンボンド発行日から遡って24カ月以内に資金が充当されたプロジェクトであること。</li> </ul> <p><b>充当の流れ</b> 再生可能エネルギー発電プロジェクト1件ごとに特別目的会社（SPV）を設立し、DEIが各SPVに投資又は融資を行います。資金の使途は、上記の再生可能エネルギー関連の支出に限られます。</p>
(B) グリーンビルディング	大和証券グループ本社もしくは大和プロパティ株式会社又はその両方が実施するグリーンビルディングの建設や、既存の建造物をグリーンビルディングに転換す

<sup>1</sup> 大和証券グループ本社グリーンボンドフレームワーク：[https://www.sustainalytics.com/wp-content/uploads/2018/11/Daiwa-Securities-Group-Green-Bond-Framework-Overview-SPO\\_Japanese\\_Final.pdf](https://www.sustainalytics.com/wp-content/uploads/2018/11/Daiwa-Securities-Group-Green-Bond-Framework-Overview-SPO_Japanese_Final.pdf)

	<p>るための改修に関わる支出。グリーンビルディングとは、以下のクライテリアに適合した建造物とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• グリーンボンドの発行日から遡って24カ月以内に、信頼できる第三者機関の認証において、上位3段階までの認証を取得している建築物、もしくは発行日以降に当該認証を取得すると見込まれる建築物、又はその両方に該当する建築物。             <ul style="list-style-type: none"> <li>- DBJ Green Building 認証の3つ星、4つ星、5つ星</li> <li>- CASBEE のB+ランク、Aランク、Sランク</li> </ul> </li> </ul>
--	---

表2：主要業績評価指標

インパクト・レポートには、個別のプロジェクトごとに以下の指標を記載し、また大和証券グループ本社は、可能な場合には算出根拠を開示することを予定しています。

主要業績評価指標	
<b>(A) 再生可能エネルギー</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 適格グリーンプロジェクトによって削減されるCO2排出量（理論値）</li> <li>• 適格グリーンプロジェクトの発電量（出力規格に基づく理論値）</li> </ul>
<b>(B) グリーンビルディング</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 建設中は、不動産認証申請の進捗状況</li> <li>• 竣工後は、以下の環境影響指標             <ul style="list-style-type: none"> <li>- エネルギー使用量（J/kl）</li> <li>- 用途別エネルギー使用量（%）</li> <li>- CO2排出量（t）</li> <li>- 水使用量（m<sup>3</sup>）</li> <li>- 廃棄物発生量（kg）</li> <li>- リサイクル率（%）</li> <li>- 認証のレベル</li> </ul> </li> </ul>

### 発行体の責任

大和証券グループ本社は、プロジェクトの説明、推定費用と実際費用、プロジェクトによるインパクトを含め、調達資金の充当を受けたプロジェクトの詳細に関する正確な情報および文書を提供する責任を負います。

### 独立性と品質管理

投資家に環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査・格付けを提供するプロバイダとして業界をけん引するサステナリティクスは、大和証券グループ本社のグリーンボンドによる調達資金の用途を検証しました。本委託契約の一環として、同社のグリーンボンドフレームワークとの適合性の確認のため、大和証券グループ本社の従業員からの文書の収集及び確認を行いました。

サステナリティクスは、対象プロジェクトに関して大和証券グループ本社から提示された情報と事実に依拠しています。大和証券グループ本社が不正確又は不完全なデータを提供したことにより、本文書で示した見解、調査結果、結論が正確性を欠く場合、サステナリティクスはいかなる責任も負いません。

サステナリティクスは、評価プロセスにおいて最高の品質と厳密さを確保するためにあらゆる努力をし、審査結果の評価にあたっては社内のサステナビリティ・ボンド・レビュー委員会（Sustainability Bonds Review Committee）が監督を行いました。

## 結論

限定的保証プロセスに基づき検討した結果<sup>2</sup>、すべての重要な側面において、大和証券グループ本社のグリーンボンドによる調達資金の充当を受けたプロジェクトが、グリーンボンドフレームワークで規定された調達資金の使途及びレポーティングクライテリアに適合しないと判断すべき事実は認められませんでした。大和証券グループ本社はサステナビリティクスに対し、グリーンボンドの調達資金が 2019 年 6 月 28 日時点で全額充当されたことを開示しました。

## 調査結果の詳細

表 3：調査結果の詳細

適格クライテリア	調査手順	調査結果	特定された過失または例外
調達資金の使途のクライテリア	2018 年及び 2019 年にグリーンボンドによる調達資金を充当されたプロジェクトを対象に、グリーンボンドフレームワーク及び上の表 1 に示されている調達資金の使途のクライテリアとの適合性を検証。	審査したすべてのプロジェクトは調達資金の使途のクライテリアに適合していました。	なし
レポーティングクライテリア	2018 年及び 2019 年にグリーンボンドによる調達資金を充当されたプロジェクトを対象に、プロジェクトによるインパクトがグリーンボンドフレームワーク及び上の表 2 に示されている KPI と適合する形で報告されたかを検証。報告された KPI の一覧は参考資料 2 を参照。	審査したすべてのプロジェクトは関連する KPI について調達資金の使途のクライテリア毎に報告されていました。	なし

<sup>2</sup>サステナビリティクスの限定保証プロセスには、発行体の提供する、調達資金の充当を受けているプロジェクトの詳細に関する文書（プロジェクトの説明、推定費用と実際の費用、プロジェクトによるインパクトなど）の調査が含まれます。発行体には正確な情報を提供する責任があります。サステナビリティクスはプロジェクトの現地調査は実施していません。

## 参考資料 1 : 審査対象のプロジェクトカテゴリー一覧

### 調達資金の用途のカテゴリー1 - 再生可能エネルギー

サブ カテゴリー	プロジェ クト数	ファイナンス及びリファイナンスプロジェクトの資金充当日	カテゴリー 内の全プロ ジェクトが 調達資金の 用途のクラ イテリアに 適合
太陽光発電	5	全 5 プロジェクトがグリーンボンド発行日から遡って 24 カ月以内にリファイナンス又は、グリーンボンドの発行後にファイナンスされたプロジェクトであることを確認しました。	適合

### 調達資金の用途のカテゴリー2 - グリーンビルディング

サブ カテゴリー	プロジェ クト数	認証のレベル	認証日	カテゴリー 内の全プロ ジェクトが 調達資金の 用途のクラ イテリアに 適合
グリーンビ ルディング	1	DBJ Green Building 認証の 5 つ星	建物の竣工後に取得予定	適合

## 参考資料 2 : プロジェクトのインパクト一覧

### 調達資金の使途の 카테고리1 - 再生可能エネルギー

プロジェクト番号	サブカテゴリ	年間 CO2 排出削減量 (t-CO2)	年間発電量 (MWh)	カテゴリ内の全プロジェクトの KPI がレポートニングクライテリアに適合
A	太陽光発電	2,297	4,837	適合
B	太陽光発電	19,022	40,045	
C	太陽光発電	2,702	5,688	
D	太陽光発電	2,701	5,686	
E	太陽光発電	19,004	40,008	

### 調達資金の使途の 카테고리2 - グリーンビルディング

プロジェクト番号	プロジェクト状況	不動産認証申請の進捗状況	環境影響指標 <sup>3</sup>	カテゴリ内の全プロジェクトの KPI がレポートニングクライテリアに適合
F	建設中	認証の仮認証で 5 つ星を取得。竣工後に本認証を取得予定。	該当なし	適合

<sup>3</sup> 大和証券グループ本社は竣工後に環境影響指標を報告することを約束しています。

## 免責事項

© Sustainalytics 2019 無断複写・複製・転載を禁ず

本書に記載された情報の知的財産権は、独占的にサステナリティクスに帰属します。サステナリティクスの書面による明示的な同意がない限り、本成果物のいかなる部分も、電子的、機械的、写真複製、録音等の形態・方法を問わず、複製し、流通させ、他の情報と組み合わせ、二次的著作物の作成に使用し、その方法にかかわらず提供し、第三者の閲覧に供し、または公開することはできません。

本書の情報は、現状有姿にて発行体から提供された情報に基づいたものであり、したがってサステナリティクスは、本成果物に記載された情報の完全性、正確性、適時性について保証するものではなく、誤謬や欠落について何ら責任を負わず、また本成果物の内容や、本成果物およびそこに記載された情報の利用によって生じた損害について、いかなる形の賠償責任も認めることはありません。第三者への言及は、かかる第三者に所有権があることを適切に表示するためのものであり、その後援または推奨を意味するものではありません。

本成果物に記載されたいかなる内容も、明示または黙示を問わず、企業への投資、プロジェクトの選択、または何らかの種類の商取引の実施の適否に関するサステナリティクスの表明または保証と解釈されるべきではありません。また（該当する司法管轄区域において定義された）「投資助言」として、または発行体の財務業績、金融債務、もしくは信用力の評価として解釈されるべきではありません。

発行体は、自らが確約した内容の確実な遵守とその証明、履行、および監視について全責任を負います。

英語版と翻訳版の間に矛盾もしくは不一致が生じた場合は英語版が優先するものとします。

## サステイナリティクスについて

サステイナリティクスは、環境・社会・ガバナンス（ESG）とコーポレート・ガバナンスに関する調査、格付け及び分析を行う独立系機関であり、責任投資（RI）戦略の策定と実施について世界中の投資家をサポートしています。サステイナリティクスは世界各地に13のオフィスを展開し、機関投資家のパートナーとして、ESGに関する情報や調査結果を投資プロセスに組み込むサポートを提供しています。今日、30か国において多国籍企業、金融機関及び政府機関に至る様々な発行体が弊社にグリーンボンドやサステナビリティボンドに関するセカンドパーティ・オピニオンを依頼しています。サステイナリティクスは Climate Bonds Standard Board により検証機関としての認証を受け、フレームワークの策定や検証において様々なステークホルダーを支援しています。サステイナリティクスは2015年に、Global Capital 社により「最も優れたSRI・グリーンボンドリサーチ・格付企業」に選出され、2018年と2019年には「もっとも印象的なセカンドパーティ・オピニオン機関」として表彰を受けました。2018年には、Climate Bonds Initiative 及び Environmental Finance 誌によって「最大の外部レビュー機関」に指定され、2019年には Climate Bonds Initiative により「気候ボンドのレビューにおける最大の認証機関」に選ばれました。また、サステイナリティクスは2018年に一般社団法人環境金融研究機構から「サステナブルファイナンスアワード特別賞」を受賞し、2019年にはジャパン・グリーンボンド・アワードのジャパン・グリーンコントリビューター部門で環境大臣賞を受賞しております。

詳しくは、[www.sustainalytics.com](http://www.sustainalytics.com) をご参照、又は

[info@sustainalytics.com](mailto:info@sustainalytics.com) にご連絡下さい。

